【郷土史への扉】

戦国時代の霧島市

最近は一部女性の間で、戦国武将がアイドル的な存在になっているようです。人気があるのは真田幸村や上杉謙信、伊達政宗などです。ただ、想像している風貌と現存している肖像画とは大きな隔たりがあるようで、好きな武将の肖像画をみて「エーッ」と驚いている人がいました。源義経や沖田総司は格好よかったといわれますが、実際に肖像画をみると、好みは人それぞれだなと感じさせられます。

一般的に、戦国時代は応仁元（一四六七）年の応仁の乱から、織田信長が天正元（一五七三）年に室町幕府を滅ぼすまでの約百年間をさすことが多く、室町幕府の権威が落ち、各地で武力抗争が起きた時代です。

戦国時代の霧島市はさまざまな人が領有していました。南北朝時代のころから税所氏が国分を中心に霧島、牧園一帯を治めていました。戦乱の世の中になると、次々と領主が変わっていきます。税所氏が島津氏に滅ぼされると、国分清水城に本田氏が入城し、霧島一帯も本田氏の領地となります。かつて「踊」と言われた牧園には、島津氏と近い関係にある北郷氏や樺山氏が入ります。牧園町持松の竪神社は北郷氏によって創建されました。

廻城跡

霧島には本田氏がいましたが、のちに島津氏と北郷氏が入ります。北郷氏と本田氏は非常に仲が悪く、その後は再び霧島を本田氏が奪い返します。両氏は大永六（一五二六）年、橘木城の攻防や、享禄二（一五二九）年、春山原での合戦など、国分・霧島周辺で戦いを繰り返しています。

横川城を中心に治めていたのは北原氏です。北郷氏の後の踊（牧園）や栗野、吉松、日当山、真幸（えびの市）方面にまで進出していました。しかし、永禄五（一五六二）年、島津貴久に敗北すると、横川は菱刈氏、島津氏、樺山氏の順で城主が変わっていきます。一方の踊城（牧園）には島津義弘が入城します。

溝辺城は南北朝時代に溝辺孫太郎という人物が築城したとされています。その後は本田氏が治めていましたが、天文三（一五三四）年から文禄四（一五九五）年まで、肝付兼固、兼演親子が治めていました。兼演は加治木も治めていましたが、島津氏が天正十五（一五八七）年に豊臣秀吉に屈すると、加治木、溝辺、日当山は豊臣氏の直轄地となり、石田三成が代官となりました。

時代はさかのぼって天文十（一五四一）年、北郷氏、本田氏、廻氏など十氏は島津忠良の部将、樺山幸久（善久）の生別府城（隼人町長浜）を攻めます。島津貴久が救援に向かいますが、途中で友軍を失い、翌年には城を渡してしまいます。さらに領土を広げていた本田董親は図に乗り、無実の家臣をたくさん殺すなどの横暴を繰り返し、天文十七（一五四八）年、とうとう島津氏や親族などから国分清水城を追い出されてしまいました。

高山城（旧肝属郡高山町）の肝付兼続は島津氏と縁戚関係にありましたが、ある事がきっかけで両氏の家臣同士がけんかをしてしまいます。これが引き金となり、両氏は全面対決することになりました。その肝付氏が永禄四（一五六一）年、福山にある廻氏の廻城を奪い取ると、島津貴久、義久は惣陣が丘（牧之原）に布陣し、忠将が馬立に布陣、諸軍は竹原山に布陣します。肝付氏が竹原山を囲んだという知らせを聞いた忠将は、家臣の反対も聞かずに救援に向かい、そこで伏兵にあって戦死してしまいます。

今回あげた以外にも、霧島市ではたくさんの戦いがありました。戦国時代は大河ドラマの中だけではなく、我々の身近な所に歴史として残っています。

文責＝坂